

第73回全国高等学校PTA連合会大会 茨城大会
参加報告

●大会テーマ 「歴史のまちで変革を！！」 ●サブテーマ ～新たな時代が目に入らぬか～

日時 平成6年8月22日(木)～23日(金) 2日間

場所 全体会 アダストリアみとアリーナ

第1分科会 アダストリアみとアリーナ

第2分科会 ザ・ヒロサワ・シティ会館

第3分科会 水戸市民会館

第4分科会 ひたちなか市文化会館

第5分科会 小美玉市四季文化館みの～れ

○大会1日目 22日(木) 12:20～16:30

参加分科会 第1分科会 13:30～

テーマ「教育の過去・現在・未来」 サブテーマ ～故きを温ねて新しきを知る～

講演1 小坪のり子 氏(茨城県水戸土木事務所借楽園公園課弘道館事務所主任研究員)

演題 藩校「弘道館」の教育

講演2 加藤崇英 氏(茨城大学教育学部教授)

演題 もっと学校・教育がみんなに開かれる未来を展望する

○大会2日目 23日(金) 9:00～12:00

9:00～ 開会行事、表彰式

10:00～ 記念講演 講師 二所ノ関 寛 氏(第72代横綱 稀勢の里)

演題 「人材育成の不易流行」

【分科会内容】

講演1では、当時水戸藩で創設された弘道館の成り立ちの説明がありました。文館・武館・医学館・天文台・訓練場などが設けられた総合大学的な学問所で、教育内容は他藩の藩校に影響を与えました。

講演2では、現在の教育現場から、将来の変化を予測することが困難な時代になり、何をもって学んだ(学ぶ)とするか?をコロナ禍で改めて問われることとなった。そのために令和の日本型教育に掲げている個別最適な学び・協調的な学びの実現を目指すことが必要。現在、大学の課題が高等学校に降りてきているために、高校→入試→大学の学びがシームレスにつながり、特色としての学びの多様化が進んだことで、新たな課題が生まれてきている。学びの多様化と教育DX(デジタルトランスフォーメーション)の推進で、学校教育がより良く変革する一方で、高校でドロップアウトすると社会に適応できなくなるので、教師・保護者のPTAの力が必要とのことでした。

【感想】

分科会は難しい内容でしたが、現在の教育の問題点、将来の教育についての講演が聞けました。先生だけでなく、PTAとして保護者も子どもたちの教育に理解と協力をする必要があります。

記念講演では、横綱引退後に大学院で勉強されてから地元の茨城県に部屋を設け、現代の若者にあった力士の育成をされているお話でした。相撲界の古い慣習や指導をやめ、令和の稽古をしている力士たちのお話は、今の子どもたちの教育や子育てにも通じることがあると思いました。今後注目をしていきたいです。

PTA会長 中江真紀子